

28道場（2年次）3月 第20回授業研究及び修了式

平成30年3月6日（火）に、東京都教職員研修センターにて28道場の第20回授業研究及び修了式を行いました。

今年度は、部員389名、リーダー85名が修了しました。修了式では、部員及びリーダーの代表者が壇上で、研修で培ってきたことや大事にしてきたことなど、一言一言に思いを込めて言葉を述べました。全ての部員・リーダーは、代表者の言葉と自分自身の姿を重ね合わせながら、この2年間の様々な思いを振り返ることができたと思います。

最終回となる第20回授業研究では、班・グループごとにこれまでの研修を振り返り、部員による授業公開の報告や、成果などの発表を行いました。平成28年4月の開講式及び第1回授業研究では、初めて会ったメンバー同士で年間の計画や班テーマなどを話し合いましたが、見通しが十分にもてず、不安な様子も見受けられました。しかし、各部員及びリーダーは2年間の研修を通して信頼関係を築き、切磋琢磨をしながら共に授業力を高め合うことができました。この日は、互いの成長を喜び合うとともに、今後に向けての夢や希望を語る姿も多く見られました。道場を修了した、これからが大切です。研修成果を様々な形で還元し、将来の東京都のリーダーとして大きく成長してほしいと期待しています。



【部員の受講記録より】

東京教師道場2年間の成果と今後に向けて

「明確な意図をもって授業を計画するようになった。」

「班テーマである深い学びについて、研究・実践を積むことができた。」

「各所属校における授業研究を通して、国語科の教師に共通する課題と、生徒の実態や学校の特徴に即した課題があることが分かった。」

「今後は、授業研究の方法や実践を若手教員に伝えていきたい。」

（高等学校・国語）

【教授より】

全20回の授業研究を修了して、今、部員の皆さんは達成感と充実感を味わっていると思う。もともと2年間の研修期間中、学習指導案を作成し、多くの指摘を受けて修正を重ね、授業研究を経て、改善学習指導案を仕上げていく過程で、時には自信を失った部員も少なくなかったと思う。しかし、その苦労が見えない財産となって、今後の授業実践を支えてくれると確信している。28道場の修了者が、研修に送り出してくださった校長先生をはじめ、所属校の皆さんの期待に応えて、児童・生徒の学力向上の原動力となることを楽しみにしている。

（国語担当教授 榎本 善紀）